

外部シンポジウムなどへの参加

女性研究者支援システム改革プログラム

事業合同シンポジウム

「未来を築く女性研究者の飛翔に向けて」への参加

実施日 2010年10月5日・6日

会場 日本大学会館2階大講堂

活動実施者 ●大場 歩 [農学D1]



活動概要

昨年度に引き続き女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウムが行われました。ポスターを中心にグループ毎に分かれての討議が行われ、ポスターディスカッションでは全採択機関、参加事業終了機関が、A、B、Cの3グループに分かれて交替で自機関のポスター前で質疑に応じました。統一して採択機関及び事業終了機関より事例報告発表が東京農工大学、東京大学、京都大学、名古屋大学、奈良女子大学、長崎大学、東北大、北海道大学、お茶の水女子大学にて行われました。

私の周囲にはわりと男女共同参画に対し肯定的な方がおらず、自分でもそういう方を納得させるほどそのことを理解していないことに気づき、今回は勉強させていただきたいと思い、参加しました。日本各地の大学で男女共同参画に対し熱い想いを持って活動している方々が沢山いることに、まず、驚きました。また、他大学や他機関で配布している「女性研究者の紹介」資料が大変今後の参考になりました。

第8回男女共同参画学協会連絡会 シンポジウムへのSAの参加

実施日 2010年10月7日

会場 理化学研究所 和光研究所
鈴木梅太郎ホールほか

活動実施者 ●大場 歩 [農学D1]



ポスターセッションには30団体が参加していました。本学の「杜の都ジャパンアップ事業for2013」については、今年度加速事業が不採用となった他大学の方に質問を受け、順調に女性研究者の数が増えていると仰っていました。発表者には博士課程在住者も少なくなく驚きました。これまで大学という機関で男女共同参画の取り組みが行われているのは知っていましたが、各学会でもそういった動きがあることを知らず、驚きました。また、大学に負けず劣らずパワフルな女性研究者が多く、活発に、ときに激しく議論をしている場面に始終遭遇し、未知の世界に直に触れられた気がしました。周囲に流れられるだけでなく、自分でよく調べ、納得したうえで、今後もこういった機会に触れていけたらよいと思います。



第9回東北大学 男女共同参画シンポジウム へのSA参加

実施日 2010年12月19日

会場 エクステンション研究棟
法学研究科講義室
(東北大 片平キャンパス内)

活動実施者 ●SA出席者:20名、推進室員



活動概要

東北大・東北大学男女共同参画委員会が主催し、第9回東北大学男女共同参画シンポジウムが開催され、サイエンス・エンジェル(SA)20名が出席しました。当日の参加者は約91名。



- Affirmative Action (アファーマティブアクション)という考え方を今回初めて知った。男女共同参画とは平等な機会を与えることだという認識があつたため、新たな視点を学ぶことができ、有意義な時間でした。
- 発表を聞いて男性の意見と女性の意見の差が大きいことに驚いた。いろいろな大学・機関が男女共同参画を行っていることを知ることができました。
- 身近にいる男性の中にはまだ男女共同参画は男性に対する差別だ、というようなことを言う人がたくさんいます。女性が特別扱いを受けているのではなく、必要だから様々な施策が行われているという認知が特に若いうちから必要だと思います。
- 「休業よりも働き続けられる環境を」という考えにとても共感しました。育児をしながら働き続けられる環境を整えていくべきだと思います。

”日本工学教育協会 第58回年次大会 工学・工業教育研究講演会で SAOGの瀬戸文美さんが発表賞を受賞”

平成22年8月21日に東北大川内キャンパスで開催された日本工学教育協会第58回年次大会において在学時のサイエンス・エンジエル活動とその経験を活かした卒業後の展開について報告した発表が発表賞をいただきました。



サイエンスアゴラ2010への出展

実施日 2010年11月20日・21日

会場 東京国際交流館会場

活動実施者 ●八木橋 奈央 [生命M1]
●橋爪 圭 (女性研究者育成支援推進室)

活動概要

独立行政法人科学技術振興機構(JST)主催、日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研究所、国際研究交流大学村共催による、サイエンスコミュニケーションに関するイベント「サイエンスアゴラ2010」において「東北大サイエンス・エンジエル」と題してSA活動についてポスター発表を行いました。出展数は約1300企画、来場者は1日目が約1300名、2日目が約1400名でした。SA活動紹介ポスターには多くの方が訪問認知度の高さを感じられました。



今回のサイエンスアゴラ2010への参加は、サイエンス・エンジエルの一員としてだけではなく、科学に携わる一人としても、非常に刺激的なものでした。サイエンス・エンジエルに興味を持ってくださった、様々な所属の方とお話をさせていただく中で、サイエンス・エンジエルがいかに土台のしっかりした組織で、自身の自主性が尊重された活動であるかを実感し、今後とも頑張っていこうという意欲が湧きました。また、様々なキャリアパスを経た方々の科学との関わり合いを見て、研究に携わる自分たちがまず伝える努力を怠ってはいけないと強く感じました。ぜひ、また来年も参加したいと思います。

(八木橋奈央)

